令和6年度　シラバス

学年	教科	教材
１年	国語科	・教科書　国語１（光村図書） ・副教材 学習漢字ノート（浜島書店）　積み上げ国語１（明治図書） つまずかない！文法の学習（新学社）　国語便覧（浜島書店）

１．学習の目標

・ 自分のものの見方や考え方を深め、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身につけるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てる。

・他者の考えや主張を積極的に受容し、自らと異なる立場の主義主張を尊重できる態度を育てるとともに、その主張の本質を的確に捉える能力を育てる。

・様々な材料を基にして自分の考えを深め、自分の立場を明らかにして、論理的に書き表す能力を身につけるとともに、文章を書くことによって生活を豊かにしようとする態度を育てる。

・目的や意図に応じて文章を読み、広い範囲から情報を集め、効果的に活用する能力を身につけるとともに、読書を生活に役立て自己を向上させようとする態度を育てる。

２．学習の方法

・授業はみんなで一緒に作りあげるものです。積極的に楽しく参加しましょう。

・提出物や宿題は必ずやり遂げ、期限までに提出できるようにしましょう。

・ノートは自分のためのものです。後から見直ししやすいよう、メモをとるなど工夫して書きましょう。

・漢字は自分でコツコツと学習することが大切です。繰り返し書いて覚えましょう。

・本は知識の宝庫です。たくさん本を読みましょう。

３．評価の観点と評価方法

評価の観点	評価の方法
知識・技能	定期テスト、小テスト、書写の作品などで評価します。
思考・判断・表現	定期テスト、小テスト、聞き取りテスト、スピーチや作文などの課題で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	定期テスト、授業への取り組み方、提出物の状況などで評価します。

４．年間指導計画

月	単元・題材名	主な学習内容	学習のねらい
4	オリエンテーション	・国語の授業のきまりについて学ぶ。 ・アクティビティに取り組む。	・国語の授業のきまりについて理解する。 ・アクティビティを通して、意欲的に授業に取り組む態度を養う。
	声を届ける 野原はうたう	・声のウォーミングアップをする。 ・情景や心情を想像しながら、詩を音読する。	・音声の働きや仕組みについて、理解を深める。
	言葉に出会うために 書き留める 言葉を調べる 続けてみよう	・辞書、事典の種類と特徴を確認し、言葉を調べる。	・辞書、事典の種類や特徴を理解し、それらを適切に使うことができる。
	朝のリレー	・表現の工夫に着目し、詩に込められた思いを読みとる。	・詩に用いられる表現技法について理解する。 ・表現の工夫に着目し、詩に込められた思いを捉えることができる。
	漢字１ 漢字の組み立てと部首	・漢字の組み立てと、部首について学び、演習に取り組む。	・漢字の組み立てと、部首について理解する。

5	シンシュン	・心情や行動を表す語句に注意して読む。 ・場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化を捉える。	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
	言葉１ 指示する語句と接続する語句	・指示する語句と接続する語句について学び、種類や働きを確認する。	・指示する語句と接続する語句の役割について理解を深める。
	ダイコンは大きな根？	・段落の役割に着目して、文章の内容を捉える。 ・わかりやすく伝えるための工夫について考える。	・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。 ・わかりやすく伝えるための工夫について理解する。
		活用問題①	・公立入試問題の出題形式に対応することができる。
	［聞く］情報を的確に聞き取る	・効果的なメモの取り方を確認し、メモを取りながら話を聞く。	・メモを取る意義や、効果的なメモの取り方について理解する。
6	情報整理のレッスン 比較・分類	・情報を比較、分類する方法を確認し、演習に取り組む。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深める。
	情報を整理して書こう わかりやすく説明する	・集めた情報を、比較したり分類したりして整理する。 ・目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にして書く。	・目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
	ちょっと立ち止まって	・筆者の主張と事例との関係を理解する。 ・段落のまとまりに着目し、文章の要旨を捉える。	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。
	文法への扉１ 言葉のまとまりを考えよう	・導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。	・言葉の単位について理解する。
	詩の世界	・詩の言葉を読み味わい、語感を磨く。 ・詩の情景を想像し、表現の効果について考える。	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解する。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
	比喩で広がる言葉の世界	・比喩について理解し、言葉についての考えを深める。 ・文章全体における各段落の役割をおさえ、文章の内容を正確に捉える。	・比喩などの表現技法を理解する。 ・文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。
	思考のレッスン１ 意見と根拠	・演習を通して、説得力のある根拠について考える。	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。

	話の構成を工夫しよう 好きなことをスピーチで紹介する	・声の大きさや速さなど、話し方を意識して話す。 ・伝えたいことを明確にして話の構成を考える。	・音声の働きや仕組みについて、理解を深める。 ・目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。 ・自分の考えや根拠が明確になるように、話の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えることができる。
7	情報を集めよう 情報を読み取ろう 情報を引用しよう	・本や事典、新聞、インターネットから情報を集める方法を学ぶ。 ・グラフの種類や特徴、情報を読みとる方法を理解し、演習に取り組む。 ・集めた情報を適切に引用する方法や、著作権について学ぶ。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深める。 ・目的に応じて必要な情報に着目し、内容を解釈することができる。
	言葉を集めよう もっと「伝わる」表現を目ざして	・観点を立てて集めた言葉を使って紹介文を書く。	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
	読書を楽しむ	・本の魅力を紹介する文章を書く。	・読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。
	本の中の中学生	・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。	・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
		活用問題②	・公立入試問題の出題形式に対応することができる。
9	聞き上手になろう 質問で話を引き出す	・聞き方の工夫や質問の種類を学び、対話の練習をする。	・音声の働きや仕組みについて、理解を深める。 ・必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。
	大人になれなかった弟たちに……	・描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉える。	・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
	項目を立てて書こう 案内文を書く	・伝える事柄、目的、相手に応じた、情報の整理のしかたを理解する。 ・相手にとって必要な情報が明確に伝わるように、情報を整理してわかりやすく書く。	・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。
	［推敲］読み手の立場に立つ	・読み手の立場に立って、文章を推敲する。	・読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。
	今に生きる言葉	・漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
	漢字２ 漢字の音訓	・漢字の「音」と「訓」の歴史や性質について学び、課題に取り組む。	・漢字の「音」と「訓」の歴史や性質について理解する。

10	星の花が降るころに	・比喩の表現について理解して、描かれている内容を理解する。 ・場面と場面、場面と人物などの描写を結び付けて、作品を読み深める。	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解する。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈することができる。
	文法への扉２ 言葉の関係を考えよう	・「文節どうしの関係」「連文節」「文の組み立て」を学び、課題に取り組む。	・文の組み立てについて理解することができる。
	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ	・筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解する。 ・文章の構成や展開の効果について、根拠を明確にして考える。	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。 ・文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。
	思考のレッスン２ 原因と結果	・演習に取り組み、原因と結果がどのようにつながっているかを整理する。	・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。
	根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く	・本や資料から文章や図表を引用する。 ・根拠を明確にし、伝えたいことの中心が明らかになるように工夫して書く。	・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深めることができる。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
		活用問題③	・公立入試問題の出題形式に対応することができる。
11	音読を楽しもう　いろは歌 古典の世界	・リズムを味わいながら音読する。	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。
	蓬莱の玉の枝 ――「竹取物語」から	・仮名遣いに注意しながら音読し、古典のリズムを通してその世界に親しむ。 ・登場人物の関係や思いに着目して読む。	・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。 ・場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
	[話し合い] 話し合いの展開を捉える	・話題や流れを捉えて議論するためには、どのようなことに気をつければよいか、具体的な発言のしかたを考える。	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。
	話題や展開を捉えて話し合おう グループ・ディスカッションをする	・意見と根拠を明確にして話し合う。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる。	・意見と根拠など情報と情報との関係について理解する。 ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。
	大阿蘇	・言葉のリズムや表現上の工夫などに注意して詩を読む。	・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
	「不便」の価値を見つめ直す	・必要な情報を取り出し、結び付けて要約する。 ・筆者の主張を要約し、それに対する自分の考えをもつ。	・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。
	言葉２ 方言と共通語	・方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について学ぶ。	・共通語と方言の果たす役割について理解する。

12	助言を自分の文章に生かそう 作品の書評を書く	・書評を書き、交流することを通して、自分の考えや読書の幅を広げる。 ・読み手からの助言を基に、自分の文章のよい点や改善点を見いだす。	・根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。
	考える人になろう	・筆者のものの見方や考え方を捉える。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
		活用問題④	・公立入試問題の出題形式に対応することができる。
1	少年の日の思い出	・文章の中での語句の意味に注意して読み、語彙を豊かにする。 ・場面の展開や表現の効果、語り手に注目して、作品を読み深める。	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
	文法への扉３ 単語の性質を見つけよう	・「自立語と付属語」、「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について学び、課題に取り組む。	・単語の類別について理解することができる。
	随筆二編	・事物や情感を表す語句や、表現に着目して読み、語感を磨く。 ・場面の展開や描写を基に、筆者の考えや思いを捉える。	・事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。
2	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く	・随筆を書く。	・書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。 ・根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。
	言葉３ さまざまな表現技法	・さまざまな表現技法の特徴について学ぶ。	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解する。
	漢字３ 漢字の成り立ち	・漢字の成り立ちを用例とともに確認する。	・漢字の成り立ちについて理解する。
		活用問題⑤	・公立入試問題の出題形式に対応することができる。
3	一年間の学びを振り返ろう 要点をフリップにまとめ、発表する	・一年間の学習の中から観点を決め、材料を集めて整理する。 ・聞き手の反応に注意しながら話す。	・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。 ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
	さくらの　はなびら	・表現技法の種類と効果を理解して、詩を読む。 ・詩の言葉や表現を読み味わい、作者の思いについて考える。	・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現技法を理解する。 ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。
	学習を振り返ろう	・課題に取り組み、一年間の学習内容をふり返る。	・一年間の学習内容をふり返ることができる。